

日刊 建設工業新聞

4月22日(月)

第19652号

建設業で本当にあった心温まる物語

降旗達生 (ハタコンサルタント代表取締役) 選

協力=全国土木施工管理技士会連合会、NPO法人建設経営者倶楽部KKC



会社で緊急
会議を開き対

桜アーク 金子 哲之 (栃木県)

昨年7月末に竣工した現場のことです。会社が始まって以来の大型物件を受注し、現場代理人として現場を担当しました。工事開始当初は順調に進んでいました。

ところが、ある企業が鉄骨強度を偽装したとの問題が発覚し、大きく報道されました。そのことが影響して、鉄骨の製作、現場への搬入が約2か月遅れてしまいました。工程をやりくりし、見直してもどうしても1・5カ月工期が足りません。お客さまに工期が遅れる事情を説明しましたが、操業開始日が決まっていたので工期遅延はダメだと言われました。結局、当初の契約工期で進めることになりました。

素直に「ありがとう」と言えた

策を検討し、また会社一丸となって工事を完成させるため決起集会を開きました。毎日のように夜遅くまで残業、そして休日出勤ともなりました。しかし、手伝ってくれた社員は、自分の現場を担当しながらにもかかわらず、一言の文句も言わず、がんばってくれました。そのおかげもあり、無事に契約工期を守って完了することができました。

引き渡し後の懇親会の席で、共に苦勞し工事を仕上げてくださいた協力業者、社員の前で人目もはばからず、号泣してしまいました。今まで23年仕事をしてきてこの様な経験をしたのは初めてでした。手伝ってくれたみんなへの感謝の言葉は一言では表せませんが、素直に「ありがとう」と言えた自分がいました。